



小池雄一

# 修郎先生の事件簿

～就労ビザ専門会社の現場から～

佐生修郎(さしやう・しゅうろう)は就労ビザ専門会社で働くコンサルタント。その幅広い知識と長年の現場経験、それに深い洞察に基づきさまざまなアドバイスを行ってきた。座右の銘は「真面目に不真面目」。

鈴木一郎 大変だ、大変だ、翔平君のおいっ子の類君が夏休みを利用してインドネシアに昆虫採集に来るんだって。  
佐生修郎 コーカサスオオカブト狙いかあ？ あれ自分で探ってみないよなえ。  
鈴木 そんなのんきなこと言っていないで。つい先日、昆虫採集をしていた日本人が捕まって長期間拘留されてしまったじゃないか。類君は大

丈夫なの？

佐生 大丈夫だよ。類君は旅行会社の昆虫採集ツアーに参加するって言っていたし、子どもがいわゆる「観光」の延長で虫取りするくらいは問題ないよ。  
鈴木 その良い悪いって何か基準はあるの？  
佐生 基準を言うのは難しい。でも考え方の基本は、「インドネシアの国益にかなっているかどうか？」だね。

鈴木 「へっ、国益？」  
佐生 限定地域にしか生息していないような希少昆虫って、国の大切な資源なんだよ。観光資源となる時もあるし、売れば天然資源とも捉えられる。中国なんかパンダを完全に生物資源として国益に

## 国益に適っているか!?

つながらるように最大限に活用しているじゃないか。  
鈴木 国益に つながる大切な資源だから、外国人には自由に触らせたくない。勝手に採取されるなんて許せないってことだね。  
佐生 そうだ。鉱物資源は

間接的にも微妙だ。以前、探掘現場へのアプローチ道路を日本の土木会社が受注した時、外国人がそこに立ち入るのはまかりならんということで、エネルギー・鉱物資源省から推薦状がとれず、就労ビザが一部許可されなかったこと

国家として国益を最大化して自国民を豊かにするために規制したり取り締まったりするの当たり前なのかもね。  
佐生 その感覚は必要だ。自国の土地を買えないような国の人たちが日本の土地や家屋を買うことができるという日本の方こそ国益をまったく考えていないお花畑国家だと見えるよ。インドネシアを見習って(?) そのぞろ目覚めな

なおのことだ。許可なく金脈もあるくらいだ。  
探しをしていると捕まるぞ。鈴木 言われてみれば独立

佐生修郎 心得の条  
一 希少昆虫はインドネシアの貴重な資源として捉えられている。夏休みの子ども昆虫採集は大丈夫。旅行会社の昆虫採集ツアーを利用するとなお良し。  
二 天然資源関係の就労ビザは、インドネシアの国益にかなっているかどうかを厳しく審査されるので、それを理解しておくことが肝要

鈴木 そうかも。でもこの考え方を逆手にとって就労ビザを取り易くするような秘策がありそうだけども？  
佐生 ふふふっ、ないわけはない。  
こいけ・ゆういち FP

Cインドネシア代表取締役。89年学習院大卒、日本アイ・ピー・エム入社。フジスタッフへ転職後インドネシアでの事業開発を手掛け、帰国後に独立。「夢ある街のたいやき屋さん」FCC経営を経て、12年より現職。栃木県生まれ。53歳。

※本連載は、実際に起きた事例を参考に、インドネシアに滞在、就労する上で気を付ける点について説明するもので、登場人物や事象はフィクションです。実際の事案に対応する場合は、専門家に相談の上、各自のご判断でご検討ください。  
「修郎先生の事件簿」は、原則、毎月第1水曜に掲載します。